



士別ロータリークラブ

創立 1960・3・24 RI第2500地区

Vol. 10

No. 2686

2019-2020年度国際ロータリーテーマ



2019-2020年度 国際ロータリー
会長 マーク・ダニエル・マローニー

RI HP <https://www.rotary.org/ja>2500地区ホームページアドレス <http://rid2500.jp/>

2019-2020年度士別ロータリースローガン

地域に根ざそう率仕の力で



- 例会場／士別グランドホテル
- 例会日／毎週月曜日 12:10～13:10
- 事務所／士別グランドホテル TEL 0165-23-1234
- 会 長／近井孝義 ■ 副会長／谷 温恵
- 幹 事／但木行久

士別ロータリークラブ HP <http://www.douhoku.jp/sibeturc/>

今日のプログラム

第2770回例会 2019年9月30日(月) 夜間例会

前回(9月9日)の記録 ・ 普会例会 ・ 新入会員卓話 ・ 誕生日祝い

- ・ 司 会 伊藤優市 会場監督
- ・ 斉 唱 我等の生業
- ・ 本日の出席 会員47人 出席者34人 出席率：72.34%
- ・ 本日の欠席 江端建之、国森和麿、近藤峯世、鈴木 勉、田中道也、深尾幸夫、細川博司、前田孝幸、水田孝志、山下卓巳、大橋直幸、加藤 博
- ・ メークアップ
- ・ ビ ジ ター
- ・ ゲ ス ト
- ・ ニコニコBOX 宮崎隆雄(葬儀終了御礼) 織戸俊二(4Hクラブ交流パークゴルフ大会個人優勝) 近井孝義(4Hクラブ交流パークゴルフ大会団体優勝として)

累計 108,000円

例会予定

■ 9月例会【基本教育と識字率向上・ロータリーの友月間】

- 9月2日(月) 例会・理事会
- 9月9日(月) 例会
- 9月16日(月) 休会(法定休日：敬老の日)
- 9月23日(月) 休会(法定休日：秋分の日)
- 9月30日(月) 夜間例会

■ 10月例会【経済と地域社会の発展月間・米山月間】

- 10月7日(月) 例会・理事会
- 10月11～12日 地区大会
- 10月14日(月) 休会(法定休日：体育の日)
- 10月21日(月) 例会
- 10月28日(月) 夜間例会

名を変え、姿を変えて例会を続ける

解散したロータリークラブの90%を占めたヨーロッパでは、全て国家権力による強制解散でした。日本のロータリーは、解散を余儀なくされたとはいえ、自主解散です。この事が、歴史的にみて大きな意義を持つこととなります。

解散当初、37あったRCうち、名称を変えてクラブを継続する旨を連絡してきたクラブが、29クラブありました。これもさらなる弾圧に耐えかねて途中からいくつか脱落していましたが、17クラブが空白の9年間の最後まで、例会を一度も休むことなく運営しきったそうです。

たとえば、札幌ロータリークラブは解散して札幌職能クラブと名前を変えていました。半年後の1941年（昭和16）2月、北海道警察本部外事課主任がクラブを訪れて例会を見合わせるよう申し入れてきましたが、何かと言い逃れて例会を継続していました。

同じころ、旭川金曜会はきつく例会中止を申し入れられ、もはやこれまでと同年4月に解散しましたが、札幌職能クラブはさらに1943年（昭和18）12月に「札幌水曜会」と改称し、例会を継続しました。

1940年8月21日に解散を決定した京都クラブは、解散と存続の2派に分かれ、解散派は大丸で木曜日に、存続派は従来どおり水曜日に京都ホテルでそれぞれ例会を開いており、両派のちに「水曜会」に統一しました。

同年の大阪クラブの解散も、じつは「弾圧による解散に先んじて、自発的に国際ロータリーを離脱し、ロータリーの名称を無くすかわりに、その精神、綱領（こうりょう）、組織などをそのまま維持温存するほうがよいのではないか」という意図によるものでした。

このように名を変え、姿を変えながら活動を続け、戦後、国際ロータリーに復帰するまで生き残れた例は、他の国にはありません。それは、自主解散だったからこそ、可能だったといえるのです。

では、戦時下、各クラブはどのようにクラブ運営をしていたのでしょうか。全国的な記録はほとんど残っていないためよくわからないのですが、札幌職能クラブでは1942年（昭和17）12月3日、札幌ロータリークラブ創立から数えて10周年になるので、札幌職能クラブは記念祝賀家族懇親会を開催しました。また、12月23日の例会では、歳末社会奉仕事業として、札幌市銃後（じゅうご）奉仕会に100円、札幌育児園、広島天使園、札幌養老院に各50円寄贈することを決議しています。

戦時中はずっと、卓話の原稿はあらかじめ特高（特別高等警察）に届け出て検閲を受けるなど、厳しい監督を受けていました。内容としては「女子勤労奉仕隊の現況」「時局と思想取締」のたぐいが多かったようです。

1943年（昭和18）は、戦況が不利となるなか、社会奉仕委員会によって軍人えんごの事業もおこなっています。

1944年（昭和19）3月1日の例会では次のことを決議し、即日実施しています。

毎月第一例会に、国民儀礼として

皇居遥拝（こうきょようはい）

国歌奉唱

軍人勸諭奉誦（ぐんじんちよくゆほうどく）

黙祷祈願（もくたうきげん）一をおこなうこと。

これがロータリークラブ（？）の例会かと首をかしげたくなりますが、このようにしなければ、例会を保持できなかったでしょう。「隠れキリシタン」と言われる所以（ゆえん）です。

しかし、ひそかに楽しみあう会合もありました。1944年には食料もひっ迫しており、例会では会食はおこなわれていなかったのですが、12月20日夜に忘年会を催して久々に夕食を共にし、会員寄贈のウイスキー、佃煮などで食膳にがざったとのことでした。

1945年（昭和20）は終戦の年。銃後の激務のため会員の出席も少なく、このころには例会はさびしくなる一方でした。そんななかでも、戦前のロータリークラブは、なぜ例会にこだわったのでしょうか。

米山梅吉は「ロータリーの例会は人生の道場である」と言いました。ロータリーの理念は、現代にあっても理想的な人間の生き方、社会のあり方、あるいは企業のあり方に通じるものなのです。戦前のロータリアンはみんなこれを信奉（しんぽう）し、例会をロータリークラブの中核にどっしりとすえていました。

例会の途中で退席するなど、考えもしないことでした。中途退席が目立つようになったのは、戦後の1960～61年（昭和35～36）ごろではないかといわれています。

今回は、どのようにして国際ロータリーに復帰したか？について話したいと思います。

■ 幹事報告

但木行久幹事

1) 名寄ロータリークラブ様、美深ロータリークラブ様より会報が届いています。

2) 士別市交通安全運動推進委員会より、9月20日行われます、「人の波・旗の波大作戦」の参加協力依頼がきます。開会式は11時から、あすなろ公園で行われます。参加依頼人数は10名程度です。参加御協力を、お願い致します。

3) 社会福祉法人しべつ福祉会様より「第28回ふれあい青空祭り」終了の御礼が届いております。

4) 士別市より「札幌市士別ふるさと会交流の集い」の案内がきています。日時は10月26日（土）正午より札幌グランドホテルで開催されます。会費は7000円、貸し切りバスでの移動となります。参加希望される魂は、私の方まで御連絡下さい。

5) 16日、翌週の23日は法定休日で休会となっております。30日は夜間例会となります

■ 新入会員卓話（プログラム委員会）

○日塔剛敏委員＝仕事柄ということもあるので、ホテルのことについて少し話します。宿泊といえば、旅館、下宿もありますが、ホテルとの違いは靴をはいて入るかどうかです。洋室か和室かということもあります。

私の方は主に宴会をやっていたので、料理のマナーについて話してみたいと思います。

中華、洋食、和食がありますが中華はマナーがあつて無いようなものだとも言われています。丸いテーブルのその上に回転テーブルがあり、その上に料理が並ぶ。主催者、主賓がから始まり、順次時計回りに取っていくというのがマナーらしいです。レンゲを上手に使うのもマナーのひとつで、スプーンもレンゲを使って飲むことになります。

洋食のフルコースはナイフなどは外側から順番に使っていきますが、間違えることもあります。その時は遠慮無くサービスマンに聞いてほしい。上部に小さなナイフ、フォーク、スプーンがありますが、これはデザート用です。

和食はいちばん難しくて、箸の割り方、持ち方からたくさんあります。御膳も懐石、茶会席からきていますが、マナー的には茶会席から来ていると言われています。茶道を習っている方は詳しいかと思います。その他に「懐紙」というのがあり、「これを上手に使って召し上がってください」ということもあります。

